

地域資源を活用した地域活性化

智頭町那岐地区における実践

サブ・ディレクター 古川 義 秀

要 旨

財団法人とっとり地域連携・総合研究センター（略称：とっとり総研）では、地方自治体や住民団体等と連携し、地域が直面する課題解決や活性化を図るための地域連携事業に取り組んでいる。そうした取組の一つとして、2011年度は、鳥取県八頭郡智頭町那岐地区の地域資源「那岐山」を素材に『いざなみコレクション（那岐山の魅力発信事業）』を行った。

『いざなみコレクション』は、とっとり総研から那岐地区住民により組織された「いざなぎ振興協議会」に企画提案し、同協議会の同意が得られたことよって実施に至った事業で、その内容は、初日の山ガールファッションショー、山ガールトークショー、パネル展示（写真撮影された那岐山の魅力をパネルに仕立てて展示）と2日目の那岐山登山からなる。

そもそも「那岐山」は、日本三百名山の一つでその景観や豊かな植生により従来から地元住民や登山愛好者に親しまれてきた山である。本稿では、那岐地区の地域活性化を図るため、「那岐山」を地域資源としてどのように活用したのか、本事業の企画提案から実施に至るまでの経緯、山ガールファッションショーや那岐山登山等それぞれの事業の実施状況及び結果について、参加者アンケートの結果を交えながら報告する。また、今回の那岐山登山では、初めて参加料金2,500円を設定し登山者を募集した。これについても参加者アンケート結果を基に検証する。そして最後に、地域資源「那岐山」を活用した地域活性化の今後の展開についても考察してみた。

今回の実践は、初日の山ガールファッションショーをはじめとするイベント及び2日目の那岐山登山とも、概ね参加者及び地元関係者には好評で、イベント終了後も地元新聞に取り上げられるなど、那岐地区の今回の取組に対して周囲の関心が高まったが、地区外からの集客や登山に関わるガイドの資質向上等その取組に対する課題も明らかとなった。今後は、従来の登山愛好者等の限られた固定客に加え、新たな集客を恒常的に見込むために、那岐山の魅力の情報発信と体感できる企画の実施が必要となる。また、そのための基盤として、ガイドの育成や資質向上など地道な地元の取組が求められる。

1. はじめに

本稿は、地域資源を活用した地域活性化について、具体的に智頭町那岐地区で「那岐山」を地域資源として活用した取組を実践例として報告するものである。

第一に、「那岐山」を地域資源として活用しようとするに至った理由や社会背景、事業着手から事業実施までの経過、実施状況、実施結果について報告する。

第二に、今回の「那岐山登山」に際し、初めて徴収することになった参加料（2,500円）について検



那岐山山頂

証する。

第三に、地域資源「那岐山」を活用した地域活性化の今後の展開について考察する。

こうした実践例が、各地で地域資源を活用した地域活性化を検討する際の参考になれば幸いである。

2. 「那岐地区」及び「那岐山」について

今回、事業実践の舞台となったのは、「那岐地区」と鳥取県と岡山県の県境にある「那岐山」であるが、先ず舞台の地がどのような地区であり、どのような山であるのか簡単に紹介する。

「那岐地区」は、鳥取県東部に位置する八頭郡智頭町に6つある地区のうちの一つで、古くから農林業を主要産業としており、2011年10月1日現在、人口1,120人、世帯数343世帯、高齢化率34.6%の地区である。ⁱ「那岐」という名称は、同地区にある「那岐山」や伊邪那岐命、伊邪奈美命を祀る「那岐神社」といった山や神社の名前に由来し、1899（明治22）年の町村制発布以降は村名として、現在は地区名として使用されている。

一方、「那岐山」は、日本300名山の一つで標高1,255mと比較的登りやすいと言われる山である。1969（昭和44）年に国定公園に指定され、1982（昭和57）年には那岐区青年団員41名が、碑石や資材器具等合わせて約1トンを山頂まで運び上げ「国定公

園記念碑」を建立している。ⁱⁱ日本海や瀬戸内海まで360°見渡せる景観や4月下旬からイワウチワやシャクナゲが次々と花期を迎えるほか、6月頃には智頭町の町花でもあるドウダンツツジが、漢字表記の「満天星」を想起させるように咲き誇るなど植生豊かな山でもある。また、古事記にも登場する伊邪那岐命、伊邪那美命に縁ある地（パワースポット）と魅力に溢れている。

では、そうした地区であり山をどうして事業実践の舞台に選んだのか。それには、山ガールといった言葉に代表される近年の登山ブームという社会背景がある。

3. 登山ブームという社会背景

近年、「山ガール」という言葉が流行している。「山ガール」とは、一般的に20代から30代の比較的経済的に豊かで、華やかな衣装を身にまとい山に繰り出す女性のことを指すと言われている。その「山ガール」に関する報道や華やかさからか、山に若い女性が急激に増えたようにも感じる。

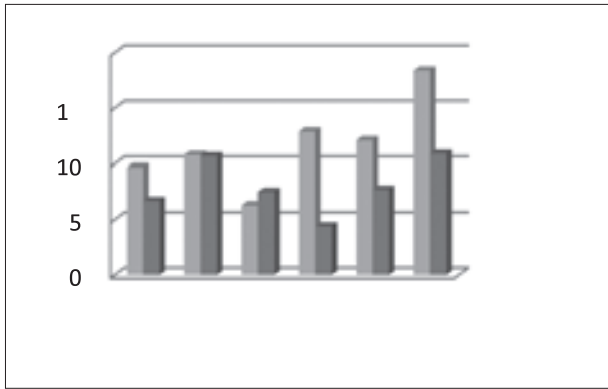
2007（平成19）年、東京八王子市にある高尾山がミシュランガイドブックの三つ星観光地として紹介された。以降、年間250万人もの人が高尾山を訪れるという。また、日本一の高さを誇る富士山も人気の高い山である。いずれも信仰の山であると同時に、茶店やお土産屋などが立ち並び、登山客だけでなく、観光を目的とする人々が多く訪れる。これらの山でも、やはり「山ガール」が盛んに取り上げられている。そうした登山ブームの実態について、『レジャー白書2011』ⁱⁱⁱから探してみる。

まず、「性・年代別余暇活動参加率の特徴」（図1）を見ると、最も参加率が高いのは男性60代以上の18.4%で、以下、男性40代12.9%、同50代12.1%と続き、それらに次いで女性60代以上10.9%となっている。女性20代は10.7%、同30代は7.5%であるが、実は、この数値は男性20代の10.8%より低い。

i 那岐地区がある智頭町は、2011年10月1日現在、人口8,057人、世帯数2,754世帯、高齢化率34.3%の町である。

ii 『柳の里』（昭和63年7月31日発行）編集発行：那岐文化財保存委員会

iii 『レジャー白書2011』（2011年8月3日発行）編集発行：公益財団法人日本生産性本部



次に、「余暇活動の参加人口の推移」を見ると、2001（平成13）年の840万人から、その後2003～2008年を550～660万人で推移するが、2009（平成21）年には1,230万人と前年の倍以上の参加人口となる。2010（平成22）年に1,070万人と減少するが、それでも1,000万人を超えている。

また、「余暇活動の潜在需要（参加希望率 参加率）」を見ると、登山は海外旅行、国内観光旅行、オートキャンプに次いで第4位となっている。中でも、男性10代、20代で登山が第2位に入るなど、若年層における関心の高まりが確認できる。

これらのデータから確認できるのは、10年程前のアウトドアブーム以来の登山ブームであり、それを支えているのは中高年の男性であること。近年、10代、20代の若年層が登山に関心を持って来ていることである。決して、山ガールだけに支えられているのではないのである。

鳥取県においても、中国地方で一番高い大山には例年2万人を超える登山者が訪れているし、本稿の舞台である「那岐山」にも、鳥取県側からは1万人

超^{iv}の岡山県側からの登山者も含めると4万人を超える登山者がいると推測される。^vこれらの山でも、やはり昨今山ガールが増えたと言われている。

しかし、「那岐山」と先に取り上げた高尾山や富士山、そして大山などと決定的に違うことがある。それは、「那岐山」には、それら登山客によって地域自体が潤うことがないことである。つまり、高尾山、富士山、大山等人気のある山は、信仰の山として発展してきた経緯のほか、茶店やお土産屋が山麓に立ち並ぶなど観光地としての要素があるのに比べ、「那岐山」の場合は、純粹に登山だけを目的に來ているのである。地元としては、多くの登山客の集客と併せて、それらの人々が地域に潤いをもたらすことを期待しているが、何の仕掛けもないのにそうした仕組みを作ることはできない。今回の実践は、そうした仕組みを作るきっかけとすることも目的の一つとした。

4. 事業主体

「いざなぎ振興協議会」とは

本章では、今回の事業主体である「いざなぎ振興協議会」について紹介する。

同協議会は、智頭町那岐地区において、「現状を認識しながら将来を見据え、自主性の高い住民自治を築けるよう、多くの那岐地区民参画により課題解決とこれからの地域づくりに積極的に取り組むこと」を目的に2011年2月に発足した。同年3月には、智頭町の「日本1/0村おこし運動^{vi}」の実施地区として認定される。とっとり総研は、同協議会設立に際して策定した「いざなぎ活性化ビジョン（地域活

iv 「那岐山を守る会」からの聞き取りによる。

v 大山の登山者数は登山届が元に算出したもの。2010年7月に赤外線センサーを設置し計測したところ、従来の推計より1.7倍多いことがわかっている。那岐山の登山者数は岡山県奈義町HPによる。鳥取県智頭町側からの登山者は1万人前後と推測される。

vi 「日本1/0村おこし運動」とは、智頭町が平成9年度に制度化したもので、閉鎖的・保守的・依存的な旧態依然とした村社会の変革を図り、また、町の活性化は集落の活性化からという視点にたつて、「これからもその集落に住もう、どうせ住むなら豊かで楽しい村がいい」を理念とするもの。こんな素朴な願いを実現するため、自分には何が出来るか、何に汗が流せるか、住民一人ひとりが無（ゼロ）から有（イチ）への一步を踏み出そうという運動。具体的には、集落または地区の10年後の将来像（計画）を描き、新たな組織（集落・地区振興協議会）の設立と同時に規約を制定する。規約では、原則として全戸が年5,000円以上を負担して全住民で運営していくこと（活動の柱をア）交流・情報 イ）住民自治 ウ）地域経営とすること）自らの責任によりボランティアで活動することを主な内容とし、この条件を満たした集落には、町が最初の2年間は年50万円（限度額）、3年目から10年目は年25万円（限度額）の計300万円（限度額）を、地区は最初の2年間について年100万円（限度額）、3年目から10年目は年50万円（限度額）が支援される。（智頭町HPより）那岐地区は、2度目の取組となる。



【表1】

<p>いざなぎ活性化ビジョン (元氣な那岐をより元氣にするために)</p>	
<p>元氣で優しい那岐が好き 毎日が健康で安心して暮らせる「笑顔の村」をつくろう</p>	
<p>地域福祉の充実 * あいさつ運動、ボランティア活動の普及、見守り活動の強化、要介護者マップの作成、介護予防事業(サロン・ミニデー)の実施</p>	
<p>健康づくり * 地区内ウォーキングルートの認定、健康ウォーキング大会の開催</p>	
<p>防災対策 * 地震・水害に対する避難方法・避難場所の調査研究と住民周知、連絡体制の確立、防災マップの作成、自主防災組織・地域防災組織づくり、防災拠点施設の整備</p>	
<p>ひと 住民が輝く那岐が好き 地域資源を活用し、知恵と工夫で「活力のある村」をつくろう</p>	
<p>環境美化 * 耕作放棄地の利活用(花づくり)</p>	
<p>農林業の振興 * 農産物を朝市等へ運ぶシステムと販路開拓、いざなぎ市場の開催、買い物代行、便利屋の起業、木の宿場プロジェクトへの参画</p>	
<p>集落営農 * 地域営農グループ、農作業受委託組織の結成</p>	
<p>特産品づくり * 特産品の開発・生産・販売</p>	
<p>心のふれあう那岐が好き 地域の和を図りながら、外の風も活かして「新しい村」をつくろう</p>	
<p>情報発信 * 那岐山を中心とする地域情報の発信、ボランティアガイドの育成、ホームページの創設</p>	
<p>交流事業 * 交流事業の推進、川上と川下との交流、農林業体験型イベントお見合い、那岐山山登り合コン</p>	
<p>空き家対策 * 空き家調査、地域運営組織による所有者と移住者のマッチング、空き家・空き施設の活用策検討</p>	
<p>短期目標、 中期目標、 長期目標</p>	

当たり年額500円の会費^{viii}によって賄われる。今回の『いざなみコレクション』は、情報交流部会と「いざなぎ振興協議会」の構成メンバーである那岐山を守る会(会長が協議会理事)において具体的な内容

を協議し、適宜、役員会に諮り進めていった。事業企画の概要及び実施に至るまでの経過は、次章以降で報告する。

viii 「日本1/0村おこし運動」を集落で行う場合は、規約で「原則として全戸が年5,000円以上を負担して全住民で運営していくこと。」が規定されているが、今回の那岐地区の様に地区で実施する場合には負担金の規定はない。今回の那岐地区の1世帯当たり年額500円の会費は、那岐地区が独自に定めたものである。

トドア関連企業の参画やモデル選定や衣装のコーディネート、モデルの動きなどファッションショーに関する留意事項が参考となった。

同日、東京都八王子市高尾山を訪問。高尾山は、2007（平成19）年にミシュランガイドブックに三つ星観光地として紹介され、以降、年間250万人もの人が登ると言われている。登山ブームの中でも、富士山、屋久島の宮之浦岳と並び人気の高い山である。実際、どのような状況にあるのか訪ねてみた。高尾山山頂にある都立高尾ビジターセンター（管理運営は、(株)自然教育研究センター）の職員によると、ミシュランガイドブックで紹介されて以降、大幅に登山客が増えた。特に、若い女性が増えたという印象がある。また、若い女性が増えるに伴い、女性に連れられた男性も増えたように感じる。2年ほどは行楽期に渋滞ができるほどだったが、3年目以降は、分散したように感じる。元々、首都圏近郊で登山者が多い山であったので、三つ星を取ったからと言って、特別なことはしていないとの話であった。複数ある登山道のうち、主たる道はきちんと整備されており、登山というよりハイキング感覚で登ることができる。麓から山頂までの要所要所に茶店があり、饅頭や団子からお土産品まで売っており、観光地という印象が強い山である。また、薬王院とともに、境内に「願いが叶う輪」（厄除け開運）が設置され、パワースポットとしてのイメージを出していた。基本的に、那岐山とは異なる山であるが、パワースポットとしての売り出し方など参考になった。

5月27日、「那岐山を守る会」役員会、総会。『いざなぎコレクション』の概要説明及び事業への協力依頼を行い、承認を得た。

6月1日、「いざなぎ振興協議会」交流情報部会。（地元住民のみ）

6月15日、「いざなぎ振興協議会」役員会。現

況報告と事業への後援依頼に関する協議を行った。講演依頼は、行政機関、観光関連団体、マスコミ等を行うこととした。

7月5日、「いざなぎ振興協議会」役員会。（地元住民のみ）

8月8日、「いざなぎ振興協議会」交流情報部会。山ガールトークショーの開催とゲストに山ガールとして売り出し中のフリーアナウンサー古瀬絵里さんを迎える調整に入ること、那岐神社の協力により「恋愛成就守」の販売、那岐山登山参加費2,500円が決定。また、協賛企業となった株式会社ラシック^{ix}から山ガールファッションショーに併せて「パシャコン」開催の提案があったことを報告するが、実施については引き続き検討することになった。なお、「パシャコン」とは、イベントの際に手持ちのデジタルカメラや携帯電話のカメラで、対象物を撮影しHPに応募し、コンテストをするもので、イベントの盛り上げと同時に、一定期間、世界中の誰もがHPを見ることができ、主催者側からは当日の情報を発信するだけでなく、次回イベント開催の告知をすることも可能になる。本提案に要する主催者の負担は、月額使用料5,000（税別）のみで、HP開設とその運営については、サービスするというものであった。

8月18日、「いざなぎ振興協議会」交流情報部会。準備状況の確認。「パシャコン」を実施する方向で検討することを申し合わせる。山頂展望舎のトイレが破損しているとの報告があり、イベント開催までに簡易なものを設置するための調整^xに入るとを申し合わせる。

8月25日、山ガールトークショーにゲストとして迎えるフリーアナウンサー古瀬絵里さんの所属事務所株式会社オフィス・ツアー・ワン訪問。山ガールトークショーでの内容、マスコミ取材、報償費、旅費・宿泊関係について協議。事業終了後

ix 株式会社ラシック：IT戦略・IT計画策定支援、システム設計・開発、IT基盤構築、システム・IT基盤運用・コンサルティング・営業アウトソーシングなどの業務を行うIT企業。鳥取市若葉台南にある鳥取産業振興機構内に本社を構える。会社の地域貢献として、那岐山を守る会が行う登山道整備などにも参加している。

x 那岐山は国定公園であるため、住民が勝手に設置物の修理など手を加えることはできない。国（環境省）は、関係都道府県の申出により、国立公園に準ずる自然の風景地を国定公園として指定する。公園計画は、都道府県の申出により国が決定し、自然公園法に基づく許認可等の行政管理責任は都道府県にある。鳥取県内では、氷ノ山後山那須山国定公園と比婆道後帝釈国定公園の2地域が指定されている。

も、古瀬さんのブログ等で那岐山を取り上げていただくことを確認。

同日、MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN株式会社を訪問。衣装、アウトドアグッズ等の借受、バーナーの掲出、登山参加者プレゼント（抽選）について協議。

8月26日、鳥取県関西本部訪問。事業内容説明と事業広報の依頼を行う。

9月6日、チラシ完成。

9月15日、「いざなぎ振興協議会」交流情報部会。各担当の業務内容及び事業の進行確認、アンケート調査の実施、パシャコンについて協議。

9月26日、「いざなぎ振興協議会」交流情報部会。イベント最終打ち合わせ、会場準備に係る協議。

10月9～10日、『いざなみコレクション』開催。

10月28日、『いざなみコレクション』反省会開催。

7. 企業協賛

本企画を実施するためには、アウトドア関連企業の協賛を不可欠とした。なぜなら、山ガールファッションショーを開催するためには、モデルの確保と衣装の調達が開催の可否を決定する重要な要素であったからである。特に、衣装の確保は、限られた経費の中で実施するために関連企業からの貸出を了承していただく必要があった。前例として、2010年10月に群馬県みなかみ町で開催された『アドベンチャーフェスティバル』の「山ガールファッションショー」^{xi}で、協賛企業が衣装等（アウトドアグッズを含む）を貸出した事例があったが、問題は、みなかみ町とあまりにも違う環境であった。

みなかみ町は、谷川岳をはじめとする日本百名山の山々や利根川の自然の恵みを活かしてアウトドアスポーツが盛んな町である。加えて、首都圏から2時間余りで行くことができる。前述の『アドベンチャーフェスティバル』も毎年約3,000人が訪れ、企業にとっては絶好の広報機会とも言える。一方、

智頭町那岐地区は、日本三百名山の一つ「那岐山」を抱えているが、地元中心で春に岡山県奈義町と連携して実施する交流登山の他に目立ったイベントもなく、こうした企画に周辺地域からどの程度人が集まるのか未知数で、企業メリットが見いだせない状況にあった。

実際、みなかみ町の事例を参考に、国内5つのアウトドアメーカー、県内2つのスポーツ店に衣装貸出を含めた協賛を依頼したが、アウトドアメーカー2社、スポーツ店1社の協賛を得たに留まった。なお、協賛いただいた社からは、「企業利益だけでなく登山の良さを広く知っていただくために協力する。地元企業として、できる限りのことは協力する。」との言葉をいただいた。一般的に、民間企業がある企画の協賛をしようとする場合、その企業にとって何らかのメリットを求める。今回は、アウトドア衣装の貸出と引き換えに、企画イベントの中で企業名を紹介や会場でのバーナー掲出により、宣伝効果と企業のイメージアップが図られることを企業メリットとして協力を依頼したが、どの程度集客が見込めるかわからないという点で疑問が呈された。しかし、協賛いただいた企業は、集客の可否にこだわらず、イベントを通じて登山者が将来的に増えること、あるいは地元企業として地域貢献をしたいという長期的な観点から協力いただいた。結果的に、協賛いただいた企業にどのようなメリットが持たされるのか現時点では不明だが、山ガールファッションショーの担当者からは、軽くて暖かくこうした服なら雪かきにも使えるので欲しいなどと好評であり、また、地元企業はこの期間中、商品購入の割引を行い関係者等が買い物に訪れるなど、それなりの効果があったのではないと思われる。

8. 実施状況及び結果

本章では、アンケート調査結果（初日：回答率43.9%、2日目：回答率100%）に基づき、『いざな

xi 谷川岳のふもと群馬県みなかみ町で、毎年、アウトドアフェスティバルが開催（主催：みなかみ町観光協会）されている。フェスティバルでは、各種企画が行われているが、山ガールファッションショーは、2010年のメイン事業として行われた。

持つことができたかについては、参加者が智頭町内か町外かで比較する。関心を持つことができたが町内21.7%、町外38.5%と、町外が町内より高い率を示しているが、町内は、以前から関心を持っているが56.5%と半数を超えている。また、「登山」に関心を持つことができたかについても、関心を持つことができた町内39.1%、町外38.5%と町内外でほぼ同じぐらいの率を示している。ただし、町外は、以前から関心を持っているも同じく38.5%となっている。このことから、以前から関心を持っているも含めて、概ね関心を引くことができたと考えられる。

次に、2日目の那岐山登山でのアンケート結果であるが、イベントがあれば来る52.2%、イベントがなくても来る13.0%となっており、イベント自体は好評だが、今後もイベントを継続していく必要があることを示している。

なお、実施した各イベント自体の実施状況及び結果については、次項以降で検証する。

8.1. 参加者

本事業の参加者の計画と実績は、表2のとおりである。

山ガールファッションショーのモデルは、一般公募で10人募集したが、実際の応募者は2人であった。山ガールファッションショーは、山ガールトークショーと並び、『いざなみコレクション』への集客を図るための柱であり、モデルがいなければ開催することができなくなる。しかし、応募者が少ないであろうことは、前年に開催された群馬県みなかみ町の例からもあらかじめ想定できたため、個別にモデルを集めることとした。その結果、地元智頭町から4人、共催及び協賛会社から5人集めることができ、

【表2】

区分	山ガールファッションショーモデル	一般参加者	登山参加者(参加応募)
計画	10人	200人	30人
実績	12人	83人 (約120人 ¹⁾)	23人 (約150人 ²⁾)

1 主催者等の関係者を含めた人数。

2 役員及び小学校閉校記念登山参加者等の関係者を含めた人数。

結果的に12人と予定より2人多い人数での出演となった。なお、衣装は7人がアウトドアメーカーからの借受衣装。3人が協賛企業から安価に購入した衣装、残る2人が自前の衣装となった。

初日の一般参加者は、83人であった。これは、受付で配布したパンフレット等の数で把握したもので、これに役員等関係者を含めると約120人の参加があったと見込まれる。アンケート調査に協力いただいた参加者の内訳は、智頭町内から63.9%、智頭町を除く県東部から19.4%とおよそ8割を占め、性別では、男性44.4%、女性55.6%と若干女性の参加が多くなっている。年齢別では、40代が27.8%と最も高く、以下30代19.4%、50代16.7%、60代13.9%となった。調査結果では、19歳以上29歳以下が0%となっているが、会場内の様子からこの世代も会場にはいたものと推定され、一応、どの世代にも参加していただいたと言える。

同伴者は、家族と一緒に55.6%と半数以上を占め、以下一人で22.2%、友人・知人と19.4%と続いている。

会場までの交通手段は、自家用車が83.3%と最も高かった。近隣にJR那岐駅があるものの、鳥取方面、津山方面とも午前中は8時までに2本程度、午後は概ね1時間に1本程度の本数しかないためか利用はなかった。同伴者については、家族と一緒に来た方が55.6%とおよそ半数を占め、以下一人で22.2%、友人・知人と19.4%となっている。

2日目の「那岐山登山」は、那岐山を守る会の会員がガイド可能な人数として30人の募集を行ったが、応募者は23人であった。応募者は、参加料金2,500円を支払っての参加となるが、これにはガイド、弁当、集合場所からの送迎、恋愛成就守(那岐神社)、保険の料金が含まれている。参加者は、県東部から最も高く78.3%とほぼ8割を占めた。男女別にみると、男性26.1%、女性73.9%であった。チラシ等で「山ガールと一緒に登ろう」とPRしているのに、特に女性に絞って募集を行ったわけではないが、女性の参加が男性のおよそ3倍あった。参加者の様子を概観すると、男性がご夫婦か職場の同僚と参加していたのに対し、女性はそれに加え、女性の友人同士の参加があった。さらに年齢別に見ると、全体で

は、30代が43.5%と最も高く、次いで50代、60代がともに17.4%で続いているが、これを男女別で見ると、男性は、30代が33.3%で最も高く、高校生以下、40代、50代、60代が16.7%の同率で続いているのに対し、女性は、30代が47.1%と最も高く、50代、60代がともに17.6%と同率で続く結果となった。一見、山ガールの影響が大きいように思えるが、前日の山ガールファッションショーのモデルも登山(「山ガールと登ろう」の企画に合わせて)しているため、実際には、イベント開催前における「那岐山登山」の関心度は、中高年の女性が最も高かったと言える。

なお、今回の「那岐山登山」は、地元那岐小学校の閉校記念登山と連携して行っており、これを含めた全体の登山参加者は約150人であった。

同伴者は、友人・知人が37.5%と最も高く、家族33.3%、職場の同僚25.0%と続いた。

交通手段は、初日と同じく自家用車が88.0%とほぼ9割を占めた。今回の「那岐山登山」は、那岐小学校の閉校記念登山と連携して行ったため、集合場所を那岐小学校とし、開会式、準備運動を行った後、バスで登山口まで輸送したが、登山口付近の駐車場の容量と参加者の交通・移手段、関係者の手間など、どうすれば効率的なのか検討する必要がある。

8.2. イベント周知

イベント開催に際しての周知方法は、主にチラシの配布・開架等で、表3に記載の箇所に依頼して行った。チラシは、開催の1か月前に完成し、その後1週間から2週間のうちに約1,100枚を配布して回った。地元那岐地区の他に、大学生など山ガールのターゲットとなる年代、登山に関心を持つ人が集いそうな箇所を狙った。

その他、ホームページは、智頭町、鳥取県八頭総合事務所、㈱ラシックほか関連団体のブログなどに掲載していただいた。新聞掲載は、地元地方紙である新日本海新聞に2回掲載していただいた。また、ラジオは、開催までの1週間に7回のスポットを打った。

アンケート調査結果によると、初日の「山ガールファッションショー等」への参加者は、智頭町内は

【表3】

配布先等(開架等依頼先)	部数(部)	備考
那岐地区内	200	
鳥取県観光連盟	100	後援
鳥取県八頭県民局、関西本部	50	HP等、後援
鳥取大学	100	
鳥取短期大学	100	
鳥取環境大学	100	
㈱智頭急行	90	智頭線沿線の駅3カ所
ヒマラヤ	100	協賛
Mont-bell	100	本社にはHP、協賛
登山愛好者が集う団体	30	
鳥取市内飲食店	100	3店
その他	30	
MAMMUT SUPTS GROUP JAPAN㈱		HP等、協賛
㈱ラシック		HP等、協賛

友人・知人が43.5%と最も高く、次いで那岐地区に全戸配布されたチラシが30.4%となっている。一方、智頭町外から来た方は、チラシと新聞が共に30.8%と最も高く、次いでホームページ、友人・知人がともに15.4%となった。

2日目の「那岐山登山」の参加者は、新聞39.1%が最も高く、チラシ、友人・知人がともに26.1%であった。

なお、参加者数自体は、10月の3連休(8日(土)、9日(日)、10日(月・祝))ということもあり、鳥取市で「鳥取三十二万石お城まつり」伯耆町で「とっとりバーガーフェスタ」など各地でイベントが開催され、特に初日のイベントは想定よりも少ない結果となった。事業終了後、参加者及び関係者から、「初日はイベントが良かっただけに、観客が少なかったのは残念。」という声や新聞、テレビ報道などでイベントを見た読者、視聴者から、「楽しく、面白そうな事業で行ってみればよかった。」などの声が聞かれた。

開催日は、8日に那岐神社の祭りがあったこと。10日に那岐小学校の閉校記念登山が予定されていたことから設定したものでやむを得ない事情があったが、登山愛好者への周知を図るためには、少なくとも

も3か月前には企画内容をしっかり決め、チラシ等の準備を済ませ、ターゲットに合わせた広報をする必要がある。

8.3. 「山ガールファッションショー」

8.3.1 実施状況

「山ガールファッションショー」は、地区内外から多くの人を集め、楽しんでもらうことを目的として実施した。

舞台を小学校体育館のステージ及びステージ中央部から体育館床に20m程に設置した花道とし、ステージ上及び花道の脇に近隣から採ってきた樹木を配置しアウトドアの様な雰囲気を出した。また、ステージの壁面3カ所に協賛企業のバナーを設置した。舞台を含む会場整備は、開催当日の午前中に関係者総がかりで行ったが、実際には、何日か前から地域の方が準備を進めていた。

なお、使用した備品等は、町からの借受と地域住民の協力によるもので、ほとんど費用はかかっていない。非常に手作り感のある、暖かみのある舞台ができたのではないかと感じている。また、体育館後方部には、受付、物販、パシャコン受付、パシャコン景品紹介の場を設け、受付では、企業パンフレット等の配布及びアンケート調査を行った。

モデルの衣装は、前述のとおりアウトドア関連企業からの借受衣装7組（ザック、帽子等のグッズ含む）、協賛企業から安価に購入した衣装3組、モデル自前の衣装2組であったが、借受衣装は、当日バタバタしないようあらかじめ衣装・進行担当がコーディネートした。なお、山ガールファッションショーは、衣装・進行係4人、音響係（地元音響会社含む）3人の計7人が担当した。

モデルの内訳は、モデル12人（表4）であるが、山ガールファッションショー開催の2時間前に集合し、衣装・進行係とともに舞台上の動きについて確認した。なお、司会もその動きを見ながら本番の進行に備えた。モデルのウォーキング（舞台演出）は、1人ずつで2回、ペアで1回、全員で1回の演出で、約40分のショーとなった。はじめ緊張からか堅い動きであったが、慣れるに従い観客に応える姿も見ら



山ガールファッションショー

【表4】モデルの内訳

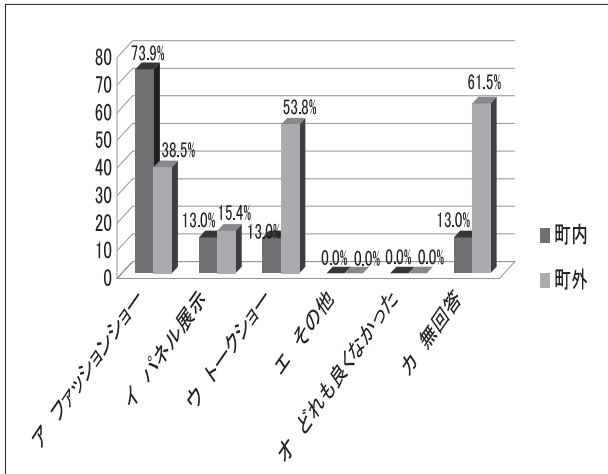
モデル構成	人数 (人)	衣装	摘要
一般公募	2	自前	親子で参加
地元（智頭町）	5	借受	智頭・どうだん娘* 2、 どうだん娘の友人 2、 那岐小学校教員 1
協賛企業等	5	自前 3、 借受 2	2日目の「那岐山登山」 にも参加

* 「智頭・どうだん娘」とは、毎年5月の開催されるどうだんまつりにおいて、実行委員会によって選ばれるPR大使。智頭町内在住の女性の中から毎年選ばれ、一年間イベントや行事などでPR活動をする。（智頭町観光協会HPより）

れた。花道と観客との距離が1m程度と近く、アットホームな感じのイベントとなった。

8.3.2 実施結果

参加者アンケートで、どのイベントが良かったか尋ねている（複数回答、図6）が、「山ガールファッションショー」は、61.1%と最も好評であった。しかし、智頭町内か町外かで比較してみると、智頭町内が73.9%であるのに対し、町外は38.5%と「山ガールトークショー」の53.8%に次いで2番目であった。



【図6】良かったイベント（町内外別）

これは、モデルとして「智頭・どうだん娘」など町内出身者が4人、那岐小学校の先生が出演したことによるものと思われる。親しい人が出ることで地域が盛り上がった一例と言えよう。

8.4. 「山ガールトークショー」

8.4.1 実施状況

「山ガールトークショー」は、「登山」や「那岐山」の魅力や山ガールや那岐山の活動者としての立場から話をしてもらい、那岐山や登山の魅力知ってもらうことを目的に実施した。

山ガールとして売り出し中のフリーアナウンサー古瀬絵里さんをゲストに迎え、那岐山を守る会から古谷哲雄さん、那岐公民館館長の前川義憲さん、司会進行にフリーアナウンサーの岡崎典子さんの4人がアウトドアの衣装を着、ディレクターチェアを配するなどアウトドアの雰囲気を出した中でトーク



山ガールトークショー

ショーを展開した。トークショーの主な内容は、古瀬さんが山ガールになった理由、登山の楽しみ、那岐山の魅力、全国的な登山ブームについてなど、参加者が「那岐山」や「登山」に興味を持っていたような内容とした。

中でも、山ガールである古瀬絵里さんは、自前のザックを用意し、カメラや帽子など登山で持ち歩いているものや、自身のエピソードを紹介するなど、実感のある楽しいトークとなった。

8.4.2 実施結果

「山ガールトークショー」は、「山ガールファッションショー」に次いで2番目に好評であったが、27.8%と33.3ポイントも下回る結果となった。しかし、智頭町外の方を見ると53.8%と「山ガールファッションショー」38.5%よりも好評な結果となった。

8.5. パネル展示

8.5.1 実施状況

「パネル展示」は、那岐山の植物や景観、その他見どころをパネルにし、那岐小学校体育館の左右壁面に設置したもので、那岐山の魅力を視覚的に知ってもらうことを目的に実施した。

なお、今回は、パネルに関する説明者は置かない。

8.5.2 実施結果

アンケート調査のどのイベントが良かったか（複数回答）の項では、全体では13.9%が良かったと答



パネル展示

えており、智頭町内外の別でも、町内13.0%、町外15.4%とほぼ同率であった。今回は、イベント内容及び時間配分の関係で、説明者を置かず自由に見ていただいたが、今回作成したパネルは、『いざなみコレクション』終了後も、智頭町内で開催される各種イベントで展示されるほか、来年度以降、閉校となった那岐小学校に常設展示される。

8.6. 「パシャコン」

8.6.1 実施状況

「パシャコン」は、『いざなみコレクション』の協賛企業でもある株式会社ラシックから提案があり、「山ガールファッションショー」と連携して実施されたものである。「山ガールファッションショー」を見るだけでなく、デジタルカメラあるいは携帯カメラでモデルを撮影し、コンテストをするという言わばイベント参加型の仕掛けであると同時に、イベント情報の発信という目的を持っている。当日は、約300件のコンテストへの応募があり、初日イベント終了後、『いざなみコレクション』役員による審査が行われた。

コンテストでは、最優秀賞、いざなみ賞、いざなぎ振興協議会会長賞、那岐山を守る会会長賞、山ガール賞の5つの賞が設けられ、それぞれ那岐特産品詰め合わせセット、杉玉（家内円満守り）、五月田詰め合わせセット、新米こしひかり10kg、古瀬絵里さんサイン入り帽子が、後日、受賞者に送られた。

『いざなみコレクション』終了後も、約3か月間ホームページが開かれ、ファッションショーの様子



パシャコンの各賞

が紹介される。地元地域からの要望があれば、この時応募いただいた参加者の皆さんに、次回イベントの告知もすることが可能となる。

8.6.2 実施結果

「パシャコン」を開催した(株)ラシックは、山ガールファッションショーと併せて行ったパシャコンは、上手くいった。写真の応募も300件集まった。インターネットサイトグーグルのファッション部門で、事業終了の一週間で世界トップのアクセス数となった。理論上では、世界で1億4千万人ぐらいには届いている計算になることから、企業メリットもあり協賛の可能性があるとして分析し、今後は、岡山県側への声掛け、現場でのツイッター利用などの検討。今回、登山との結びつきが撮れなかったため、野外での写真も一緒にPRできればなどの意見が反省会の場で出された。

コンテストでは、入賞者への賞品として那岐地区の特産品を贈ることとしており、それは那岐山の特産品をPRするよい機会となることが想定されたが、参加者の多くが智頭町内の方であり、結果的に5人の入賞者の内3人が智頭町内の方であったため、結果的には効果が薄い結果となった。

しかしながら、本来の目的である情報発信という面では、参加型の情報発信という点で単なるホームページでの公開より効果的であると思われるため、今後、有効な活用法について検討する必要がある。

8.7. 「那岐山登山」

8.7.1 実施状況

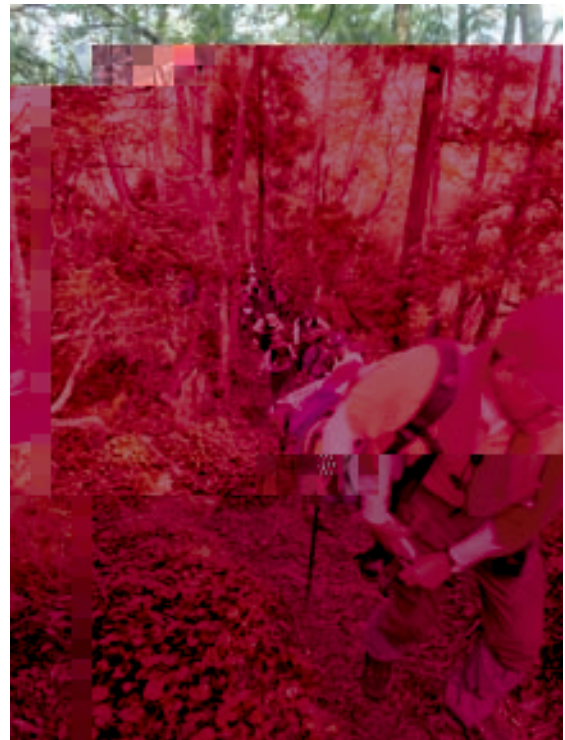
「那岐山登山」は、『いざなみコレクション』の「那岐山登山」に応募した23人の一般参加者と「那岐小学校閉校記念登山」の参加者約120人の計約150人で行った。一般参加者は、木の根や鎖場、時期的に開花はしていないがイワウチワやシャクナゲ、ドウダンツツジなどの植物を見ることができ「那岐山」の魅力を満喫できる西仙コースを登り東仙コースから降りるコースを、「那岐小学校閉校記念登山」は、全校生徒及び保護者等の参加であったので、比較的容易な溪流コースを往復した。合流したのは、休憩

地点となった馬の背小屋と山頂であったが途中、「ヤッホー」の声を掛け合うなど小学生との交流も見られた。また、一般参加者は、植生の紹介や景観などポイントでのガイドの説明に熱心に聞き入っていた。

一般参加者は、40歳未満の女性が11人とほぼ半数で、また、「那岐山登山」が初めての方が69.6%とおよそ7割であった。中でも、特に若い女性は登山自体の経験もほとんどないらしく、山頂までの行程で疲れ切った様子を見せていた。しかし、霧はかかっていたものの見晴らしの良い山頂の景観に目を奪われ、智頭弁当のおにぎりを頬張ると、元気も回復した様子であった。

山頂付近には、新たなパワースポットの場として今後売り出していきたい「刻字の巨石」がある。巨石に刻まれた“伊邪那岐命”“伊邪奈美”“奈義神”“天照大御神”の文字は、1849（嘉永2）年に美作国の住人某によって彫られたものと伝えられる。また、現在、那岐地区にある那岐神社は、もと「那岐

大明神」といい、伊邪那岐命・伊邪奈美命を祭り、那岐山の霊峰を御神体の象徴として因作両方の住民



ガイドを先頭に登山



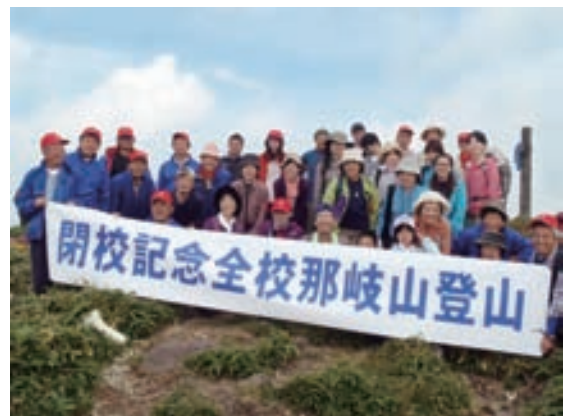
準備体操（那岐小学校）



智頭弁当



集合写真（那岐小学校）



那岐山登山参加者とスタッフ

が崇敬していたものである。^{xiii}周知のとおり、伊邪那岐命・伊邪奈美命は、古事記冒頭の国生みの謂れのある神様であり、恋愛成就、安産祈願などの御利益のある場（パワースポット）として注目したものである。実際にそこを訪れた参加者は、刻字を見ようと巨石の周りに集まり、女性たちは巨石の前で記念撮影をしたりしており、ある程度、関心を引くスポットであるという手応えを感じた。

下りの東仙コースは、コースの大半が階段であるためか、一部の女性は関係者の手を借り、予定時間を超えての下山となった。登山に慣れた中高年の女性が「那岐山へは始めて来たが、登山には最高の山だ。」と述べられていたため、初心者、中級者、上級者など経験、体力に合わせたコースをあらかじめ設定しておく必要がある。

8.7.2 実施結果

アンケート調査結果によると、今回のようなイベントがあれば、また参加してみたいか？の問いに、イベントがあれば来ると52.2%と半数を超える方が回答したほか、イベントがなくても来ると回答したが13.0%おり、概ね好評であったと言える。

次に、「那岐山」のどんなところに関心があるか？（複数回答）については、景観69.6%、豊かな植生39.1%、パワースポット26.1%の順であった。なお、これを男女別に比較すると、男性は豊かな植生と景観がともに50.0%で並び、3番目にパワースポット16.7%であったが、女性は、景観が76.5%と最も高く、豊かな植生35.3%、パワースポット29.4%となった。男性は女性より豊かな植生に関心があるのに対し、女性は男性より景観とパワースポットにより関心があることがわかる。

ガイドに対する感想は、良かった78.3%、もう少し詳しく説明してほしい21.7%で、概ね好評だったと言える。ただし、こうしたイベントがなくても、ガイドを利用してみたいか？の問いに対しては、利用してみたいが56.5%となっている。これは、利用しない13.9%と、参加料金の2,500円は適当か？の



パワースポット「刻字の巨石」



「刻字の巨石」を見る参加者

問いで高いと回答した人39.1%が同率であることから、ガイドの利用に参加料金が影響することが確認できたと言える。もちろん、参加料金の中には、ガイド料だけでなく、弁当代、保険料、バス料金、恋愛成就守代が含まれており、今後、「那岐山登山」により事業を進めていくためには、これら全てを含め見ていく必要がある。

改めて述べるが、この度の『いざなみコレクション』は、初日の「山ガールファッションショー」、「山ガールトークショー」、「パネル展示」と2日目の「那岐山登山」で構成される。初日はあくまでも集客の手段としてのものであり、本来のねらいは、2日目の「那岐山登山」に恒常的に来てもらう仕組みづくりを構築することにある。そのためには、受入態勢を安定的に機能させる必要があり、ガイドによる参加料金の徴収もそのための実験であった。

一般参加者の参加料金に対する満足度、適当な参

xiii 出典は、同じ『榊の里』。

加料金の設定等については、第9章で検証する。

8.8. その他

8.8.1 「恋愛成就守」

那岐山は、古事記の国生みの話で知られる伊邪那岐命・伊邪奈美に縁のある地である。また、那岐地区には那岐神社があり両神を祭っており、『いざなみコレクション』の前日の10月8日が那岐神社のお祭りの日であった。今回、那岐山をパワースポットとして売り出すに当たり、那岐神社祈願の恋愛成就守を70個用意した。うち28個は山ガールファッションショーのモデルと那岐山登山の参加者に配布し、残りの42個は初日に一般参加へ販売することとした。会場内に設けた特産品販売所で販売したが、残念ながら売れ残ってしまった。

なお、売れ残った恋愛成就守は、現在、那岐神社で購入することができる。(那岐神社で祈祷したお守りのため、那岐神社以外では販売されない。)



水晶入 恋愛成就守



智頭町の特産品販売

8.8.2 特産品販売

初日、会場の一角に設け、かき餅、ヤーコン茶など地元の特産品を販売した。試食などもできたが、購入者はあまりいなかったようである。

不振の原因は、参加者の大半が地元の方であったことが考えられる。

9. 一般参加者の満足度と参加料金

第8章の8.7.2の那岐山登山の実施結果で、ガイドに対する感想で、良かったが78.3%で概ね好評であったが、イベントがなくても、ガイドを利用してみたいとの回答が56.6%であり、さらにガイドを利用しないと参加料金が高いと感じた人がともに39.1%と同率であることから、ガイドの利用に参加料金が影響すると述べた。これを言い換えると、今回の「那岐山登山」2,500円の負担にする満足度は56.6%であった言えよう。では、一般参加者の満足度を上げるためには、どうすればよいのか。

第一に、ガイドの資質向上など2,500円に見合うサービス内容とすること。第二に、今回と同様のサービス内容が参加者の満足に値するよう適当な参加料金に設定、つまり参加料金を下げる必要があると考える。

まず、第一のガイドの資質向上についてである。今回、ガイドとして活躍したのは「那岐山を守る会」の会員である。「那岐山を守る会」では、毎年、定期的に登山道の整備を行うほか、愛媛県からのイワウチワ見学会など依頼があれば登山のガイドを行っている。しかし、ガイドと言っても、那岐地区での居住経験から得られる知識に限られ、より専門的な知識を保持しているわけではない。今後、動植物や地質などに関する専門知識、参加者に説明する能力などを身に付けていくことが望まれる。そのためには、そうした講習会への参加、「那岐山」へ専門家を招いて講習会等を開催するなどが考えられる。また、資質向上と併せて、那岐登山でのガイド説明のポイントを設定するなど、誰がガイドを行っても変わらないサービスを提供する環境を整備する必要もある。

第二に適当な参加料金である。アンケート調査の結果によると、参加料金2,500円を高いと感じた人が適当だと思う料金は、1,000円から2,000円までであるが、平均すると1,500円である。また、2,500円を適当と感じた人を加えた一般参加者全体の平均は2,300円になる。今回の2,500円は、弁当代、お茶代、保険料、バス代、恋愛成就守（お守り）という実費にガイド代というサービス料を付加して設定しているが、ガイド代は、結果的に参加者に出費していただけたらという相場観2,500円との相違になっている。この2,500円を下げるためには、実費部分を参加者自身で負担していただくか余分なオプションを省くことが考えられる。参加料金の内訳をそれぞれに精査してみる。まず、弁当代である。今回のイベントでは、地元で採れた新米を使用したおにぎりをメインにした智頭弁当を用意した。智頭町では2011（平成22）年度から「智頭町森林セラピー」^{xiv}を始め、その中で地元の山菜や野菜などを使用し、栄養バランスを考えたセラピー弁当を提供しているが、参加費が更に高くなるため、今回は最も低額な弁当とした。結果は、量、味付け、手作り感など（23人中11人がアンケートの自由記載で、弁当がおいしかったと回答）好評を得た。地元の産物を知ってもらうためにも外せないところである。次にお茶であるが、これは個人の嗜好、登山中の給水の必要などから、参加者自身で準備していただくことが適当と考える。保険料は、全員で1,000円の保険でこれを参加者数で割り戻した金額であるが、万が一のことも考慮し必要であろう。バス代は、参加人数と登山口に止められる駐車台数の加減によるが、場合によっては、分乗したり、登山口まで自家用車で行ってもらうということも考えられる。恋愛成就守は、今回のイベント用に用意したもので、通常の場合は必要なだろう。そして、ガイド代であるが、これが人件費、事務費等に相当する部分であり、主催者と

しては多ければそれに越したことはない。

今回の場合、高いと感じた人が適当と考える金額の平均は1,500円であった。また、参加者全員の平均は2,300円であった。さらに、今回の参加料金に恋愛成就守の金額が入っていることを考慮すると、 $2,300円 - 400円 = 1,900円$ 2,000円が適当な金額ではないかと考える。（表5）

これについては、「那岐山登山」で参加料金が適当かアンケート調査（図7-1）をしたのと同様に、2011（平成23）年10月に鳥取市が実施した万葉のふるさと国府「ぐるっと発見バスツアー」でも調査（図7-2）しているので、両者を比較して見てみたい。なお、鳥取市の事業は、鳥取市国府町の魅力ある文化財を解説員が解説しながらバスで巡るという企画であり、参加料金は1,500円としている。

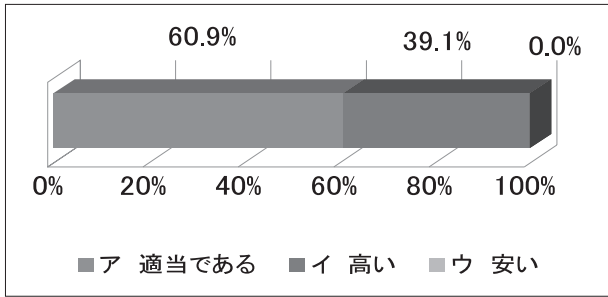
比較した結果は、適当であるは「那岐山登山」60.9%に対し「ぐるっと発見バスツアー」は75.6%、高いは「那岐山登山」31.9%に対し「ぐるっと発見バスツアー」は2.2%、安いは「いざなみコレクション」0.0%に対し「ぐるっと発見バスツアー」は20.0%と、適当であると回答した方は6～7割程

【表5】

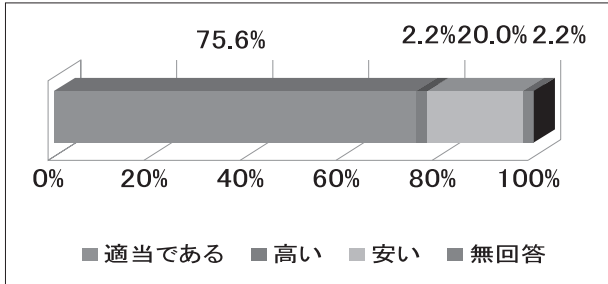
区分	今回の参加料金	適当と思われる料金	備考
合計	2,500円	2,000円	
内訳	弁当代	500円	実費
	お茶代	130円	自分で準備
	保険料	40円	実費
	バス代	900円	(900円) 参加人数により変動。実費
	恋愛成就守	400円	原価400円、販売価格600円 イベント時のみ
ガイド代	530円	1,460 (560)円	参加料金 - 実費

* ()は、バスを使用した場合の料金

xiv 森林セラピーとは、森林浴を一步進めたもので、森林浴ではその効果を実証したデータ等が整っていなかったが、現在、医学的な計測や評価する技法が進歩することによって森の効果が解明されつつあり、森林セラピーは医学に裏付けされた森林浴効果をいし、森林を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目的とする。具体的には、森の中に身を置き、森を楽しみながら、森の中で歩行や運動、レクリエーション、ライフスタイル指導などを実施することでその効果を達成するセラピー。智頭町では、「森林は町の大切な資源」として、「森林セラピー」をまちづくりの主要なテーマのひとつと位置づけ、森林セラピー協議会の設立や森林セラピーガイドの養成、実験実証などを行い「森林セラピー基地」の認定を目指し、町民と一緒に具体的な形づくりを進めている。（智頭町HPより）



【図 7 - 1】 参加料金の2,500円は適当か
(『いざなぎコレクション』)



【図 7 - 2】 参加料金の1,500円は適当か？
(鳥取市『ぐるっと発見バスツアー』より)

度とほぼ同率であるが、「那岐山登山」は高いと感じた方が4割程度、「ぐるっと発見バスツアー」は安いと感じた方が2割程度となっている。なお、「ぐるっと発見バスツアー」でも事業の満足度を調査しており、良かった89.5%、普通10.5%と非常に満足度が高い事業であったことを示している。

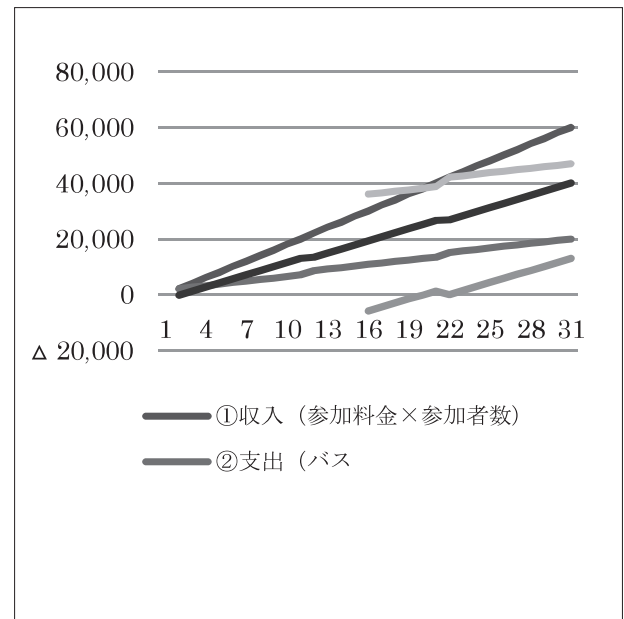
さらに「ぐるっと発見バスツアー」の参加料金についてみると、その内訳は、昼食代1,000円、長通寺拝観料300円、保険料100円、お茶代100円となっているが、主催者が鳥取市であるため、因幡万葉歴史館の入館料一般500円(65歳以上無料)が減免により無料となっていたり、市のマイクロバスが使用されたため参加料金に算入されていないなど、自治体を実施することより参加料金が低く抑えられてい

たことがわかる。

そうしたことから、「那岐山登山」の参加料金2,000円の設定は、決して高い料金ではないと考える。

では、2,000円が参加料金として適当な金額だとすれば、1回の「那岐山登山」に何人の参加者があれば、収益が上がるのであろうか。表6、図8を見ていただきたい。参加費を2,000円、ガイドを10人当たり2人の割当、連絡調整や待機人員としての事務1人、1回当たりの参加者引受人数の上限30人とした場合の収支計算である。15人以上では、バスを使用した場合のケースも試算した。

この試算によると、参加者1人の場合、ガイド2人と事務1人が対応するため弁当代540円×4人=2,160円の支出となりマイナス160円の赤字となる、参加者2人以上から黒字になり、5人で5,680円、10人で12,980円、20人で26,500円、30人で40,020円



【図 8】 有償ガイドに係る収支

【表 6】 参加者と収益の関係

(単位：人、円)

参加者数(人)	1	2	5	10	15	20	25	30
ガイド数(ガイド+事務1人)	3	3	3	3	5	5	7	7
収入(参加料金×参加者数)	2,000	4,000	10,000	20,000	30,000	40,000	50,000	60,000
支出(実費)	2,160	2,700	4,320	7,020	10,800	13,500	17,280	19,980
収益(-)	160	1,300	5,680	12,980	19,200	26,500	32,720	40,020
支出(バスを使用した場合)					35,950	38,650	44,230	46,930
収益(＃)					5,950	1,350	5,770	13,070

の収益が見込まれる。しかし、参加者15人以上でバスを使用することとした場合、バス使用に伴う支出増のより収益はマイナスとなり、22人以上参加者があった場合ようやくプラスに転じることになる（20人で一度プラスになるが、21人からガイドが増えるため再びマイナスになる。）が、それでも収益は、30人で13,070円までにしかならない。従って、収益を上げようとする場合は、基本的に登山口集合とし、登山口までの送迎はJRで那岐に来られる方に限るなどを検討する必要がある。

なお、収益は事務費や人件費に充てられることになるが、今後も活動の主体になると想定される「那岐山を守る会」の活動拡充やガイドを行う者のモチベーションの向上に資するものとする。

「那岐山を守る会」の現況を平成23年度収入支出予算（表7）から見ると、総額約474千円が組まれているが、その内訳は、登山道整備、情報収集費等の事業費228千円、智頭町観光協会会費10千円、総会費等の会議費51千円、事務費10千円、予備費175千円となっており、「那岐山」を保全・維持してい

【表7】平成23年度「那岐山を守る会」収入支出予算

収入の部					
（単位：円）					
科目	項目	H23予算額	H22予算額	増・減	摘要
1. 会費		67,500	70,000	- 2,500	
	個人会費	67,500	70,000	- 2,500	135口見込み
2. 委託費		140,000	140,000	0	
	登山道整備委託費	130,000	130,000	0	町：130,000
	那岐財産区助成金	10,000	10,000	0	
3. 雑収入		20,000	20,000	0	
	那岐山ふれあい大会謝礼金	20,000	20,000	0	
4. 繰越金		246,537	310,543	- 64,006	
	前年度繰越金	246,537	310,543	- 64,006	
合 計		474,037	540,543	- 66,506	

支出の部					
（単位：円）					
科目	項目	H23予算額	H22予算額	増・減	摘要
1. 事業費		228,500	218,500	10,000	
	登山道整備材料費	10,000	10,000	0	
	整備事業人件費	85,000	85,000	0	
	登山道整備慰労会	40,000	40,000	0	
	那岐山情報収集費	20,000	20,000	0	
	ふれあい大会マイクロ送迎謝金	3,500	35,000	- 31,500	
	スタッフジャンパー助成費	0	20,000	- 20,000	
	那岐山樹木名札作成費	50,000	0	50,000	
労災保険料	20,000	40,000	- 20,000		
2. 会費		10,000	10,000	0	
	智頭町観光協会会費	10,000	10,000	0	
3. 会議費		51,000	51,000	0	
	総会費	50,000	50,000	0	
	公民館使用料	1,000	1,000	0	
4. 事務費		10,000	10,000	0	
	事務用品購入等	10,000	10,000	0	
5. 予備費		174,537	251,043	- 76,506	
	予備費	174,537	251,043	- 76,506	
合 計		474,037	540,543	- 66,506	



【表8】『いざなぎコレクション』に係る収支内訳

収入		(単位 円)			
区 分	金 額	経費負担内訳			
		いざなぎ 振興協議会	株式会社 ラシック	とっとり総研	
1. 事業費	870,227	187,943	250,000	432,284	
事業費	870,227	187,943	250,000	432,284	
2. 参加費	65,000	65,000	0	0	
参加費	65,000	65,000	0	0	
合 計	935,227	252,943	250,000	432,284	

支出		(単位 円)			
区 分	金 額	経費負担内訳			
		いざなぎ 振興協議会	株式会社 ラシック	とっとり総研	
1. 山ガールファッションショー、トークショー	468,281	109,797	0	358,484	
会場設営費	98,111	98,111			
出演者・司会に係る謝金・旅費等	250,890	4,520		246,370	
モデル募集チラシデザイン作成料	21,000			21,000	
モデル衣装等購入費代	80,749			80,749	
借受衣装クリーニング及び送料	17,531	7,166		10,365	
2. パネル展示	54,108	54,108	0	0	
パネル製作代	54,108	54,108			
3. パシャコン	270,750	20,750	250,000	0	
開設・運営費	255,250	5,250	250,000		
賞品代	15,500	15,500			
5. 那岐山登山	48,488	48,488	0	0	
弁当	13,000	13,000			
保険	1,000	1,000			
バス代	34,488	34,488			
6. 広告宣伝費	73,800	0	0	73,800	
エフエム山陰ラジオスポット	58,800			58,800	
チラシコピー代	15,000			15,000	
7. その他事務費	19,800	19,800	0	0	
恋愛成就守	19,800	19,800			
合 計	935,227	252,943	250,000	432,284	

ネスが生まれることを期待している。

今回の『いざなぎコレクション』は、初日に参加者が少なかったなど反省点がいくつかあるものの、住民自らが積極的に動いて準備を進め、筆者もあまり経験したことがないほど質の高いイベントが実施できた。また、主催者である那岐地区住民の楽しかった、次は何をしようかという反応、協賛企業からの参加者の皆さんが楽しそうですねという言葉、事業終了後にテレビ、新聞で報道され、それを見た方からの好反応など、全体としては成功したと考えている。

そうした意味では、地域内外の人がその魅力を認識し、自らその魅力を楽しむこと。また、そうした魅力を地域外の方に情報発信するところまではできたと考える。課題は、次の「那岐山」及び「那岐地区」へ何度も繰り返し来ていただけるかである。そしてその中には、イベントがなくても来ていただきたいという願いが含まれている。そのためには、「那岐山」にこだわり、継続的にその魅力を発信していく必要がある。「那岐山」にこだわるのは、「那岐山」は古くから地元で愛されたシンボルであり、ここにしかない地域資源だからである。

今回、初日に実施した山ガールファッションショー及び山ガールトークショーは、「那岐山」や「那岐地区」へ来ていただく動機づけとして「登山」に関心を持っていただくため、まずは那岐地区へ来ていただくという意図で実施した。智頭町以外の参加者に絞ってアンケートの回答を見ると、イベントがあれば来るが53.8%、「那岐地区」や「那岐山」に関心を持つことができたが38.5%、「登山」に関心を持つことができたが同じく38.5%となっている。アンケートの回答者数が少ないことからこの数値の信憑性には疑問があるところではあるが、少しでも関心を持つ人ができたことには間違いない。しかし、あくまでも本質は、「那岐山」及び「那岐地区」に何度も来てもらいたいということであり、イベント企画はその呼び水である。2日目に「那岐山登山」を実施したが、弁当やバスの手配等の関係であらかじめ参加者を募集しているため、初日の参加者とは当然ながら連動していない。今後、「那岐山登山」を企画した際に、今回の『いざなみコレクション』の参加者がどの程度参加しているか計ることで、はじめて実際の効果を確認することができるだろう。

また、今回の事業で効果があったと考えられるも

ののの一つに、今回の主催者であるいざなぎ振興協議会及び協賛社となった㈱ラシックが、次回の企画立案に非常に意欲的であることが上げられる。こうした機運の盛り上がりは、地域の活性化を図る上で欠かせない。

では、「那岐山」の魅力にこだわった事業展開とは、どのようなものであろうか。以下は、筆者が考える体系(案)(図13)である。「那岐山」の魅力は、景観

「&ぱび赤初碇違く&あけるMソ乗 減倅の&には、罫々鶯どの

でのイベント、那岐山に伝わる話、登山者やガイドの話、登山道整備等那岐山を守る会の活動など登山愛好者等が欲しがるといえるような内容を定期的にホームページに掲載したり、会報やチラシ等で配布することが望まれる。ホームページは、不特定多数の興味のある人が閲覧することができるが、会報等は単に人が多く集まる場に配布しても無駄になることが多い。登山に関連した商品を扱うスポーツ店など登山愛好者が集う場所に配布した方がより効果的である。

また、魅力の「体感」については、ガイドの力量が問われる。那岐山の景観や植物について説明できる知識、登山中の天候悪化や負傷した際の対応など登山に必要な知識に加え、植物の開花時期とは違う時期でもそれを連想させ、その時期にまたやって来ようかと思わせるような話術が必要となる。ガイドの力量が、登山愛好者等の数を左右することになるため、ガイドの資質向上は欠かせない。また、ガイドするポイントをあらかじめ設定しておき、誰がガイドをしても同等のサービスが受けられる環境を整備することも必要である。

こうした基本部分を絶えず押さえながら、次のステップとして考えたいのが、登山愛好者等だけでなく不特定多数の一般の人にも来てもらえる「仕掛け」である。今回実施した『いざなみコレクション』の初日や今回「那岐山」としては初めて、古事記の国生みの話で知られる伊邪那岐命・伊邪奈美命を前面に出し、「那岐神社祈願・恋愛成就守」の販売や恋愛成就が叶うパワースポットとして2日目の那岐山登山で「刻字の巨石」を案内し説明したのがそれである。

那岐山の魅力は、「景観」、「豊かな植生」、「パワースポット」である。今後も、これらの魅力を最大限に生かし、時流に合った企画を立てることが望まれる。

12. おわりに

この『いざなみコレクション』をいざなみ振興協議会に企画提案した最初の頃、那岐地区のある住民から「地域活性化って何ですか?」と問われたこと

を未だに鮮明に覚えている。その時、筆者は「地元の人がそこに住んでいて良かったと思えること。他の地域から来た人がその地域に来て良かったと思えることではないでしょうか。」とお答えした。今回の事業に置き換えると、那岐地区の住民が『いざなみコレクション』を開催して良かったと思えたのか。また、『いざなみコレクション』に参加した人が、参加して良かった。また、「那岐山」あるいは「那岐地区」に来てみたいと思っていただけたのか。ということである。

那岐地区としては、地区住民が増え、昔、林業で栄えた頃のように、にぎわいのある地域したいという願いを持っているが、生半可なことでは成功しない。目を外に向けると、新開発した特産品が大当たりし、地元にも莫大な利益をもたらすケースがないではないが、やはり基本的には地道な活動の積み重ねが大切だと考える。

筆者は約2年、この智頭町那岐地区という地域に関わったが、一番驚かされたのが那岐地区住民の行動力である。今回、とっとり総研が企画提案し実施に至ったこの『いざなみコレクション』も、ほとんど「山ガール?面白そうじゃないか。」といったノリで決まった(正式には、関係先の総会での了承をもって決定)。その後、平均すると月1回程度の割合で会合が持たれた。しばしば、こうした会合は、年長者が仕切ったり、発言力の強い者に引きずられたりすることがあるものだが、那岐地区では、概ね30代から70代までの役員が遠慮なく喧々譁々しながら協議が進められた。後に「那岐地区では、地域を活性化するには古い者がいつまでもいたらいけないと、頃合いを見て役を若い人に譲っている(消防の大会に出ると、那岐地区の消防団長が一番若いなどがその事例)。若い者に好きな様にやってもらい、困って相談しに来た時に古い者が出ればよい。」という話を聞いた。また、今回の山ガールファッションショーの舞台も住民自らが動き、町内から花道に使用する台やその上に敷くマットを準備したり、個人所有の山林から樹木を切り出して来て、体育館の中をまるで森の中にいるかのような雰囲気を変えてしまった。そうした地域の行動力や決断力が、この

『いざなみコレクション』を支えていたように思う。

『いざなみコレクション』が終了して数ヶ月経過したが、いざなぎ振興協議会では、既に次期企画の検討が始まっている。今回は、手続き上秋の事業実施となったが、次回はシャクナゲやドウダンツツジなど「那岐山」を代表する樹木が花期を迎え「那岐山」の魅力が最も感じられるゴールデンウィーク後に実施される予定だ。那岐山の魅力を柱に集客が期待できる企画を組むことができれば、これまでの固定客に加え新たな集客を恒常的に見込むことができるだろう。もちろん、そうした企画以上に、ガイドの養成、資質向上などしっかりした基盤を作り上げていく必要がある。いざなぎ振興協議会、そしてその構成員であり「那岐山」を主たる活動の場とする那岐山を守る会が連携し、「那岐地区の活性化」という共通の目的の下、取組んでいくことができれば、より以上の活性化が見込めるのではないかと考える。

なお、とっとり総研では、今回の事例の他にも、

中心市街地における空家活用など地域と連携した取組を進めている。地域活性化を図ろうとする場合、どこから手を付けてよいかわからないという声をよく耳にするが、こうしたモデル事例やこれまでに集積してきた知見を活かし地域の様々な取組を実践していくことが、とっとり総研が取組む地域連携事業である。

本稿では、智頭町那岐地区における実践の端緒から事業実施までに至る経緯、そして登山参加費の導入等実証実験の結果について報告したが、これはあくまでも一例にすぎない。本実践が、今後の那岐地区活性化の起点となると同時に、他地域においても地域活性化を検討する際の参考になればと願っている。

最後に、『いざなみコレクション』に関わった智頭町那岐地区の皆さん、協賛いただいた企業、後援者、その他多くの御支援等いただいた方々に対し、お礼申し上げます。



〔イベント周知・参加者募集チラシ〕



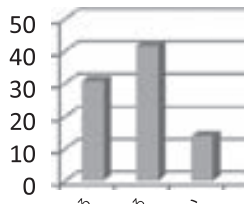
〔山ガールファッションショーモデル募集チラシ〕



〔パシャコン（HPより）〕

■
■

10 今回のようなイベントがもしも、また那曲市で開催されたら、どのようなイベントが人気があるか、またそれはハイキングなどで



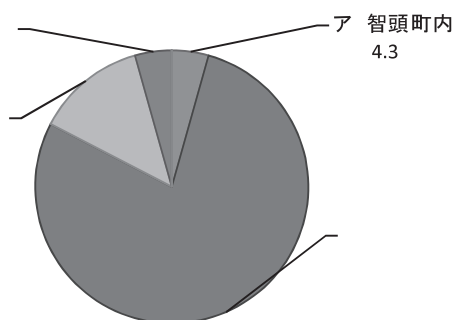
イベントが面白くなる
イベントが短くなる
わからない

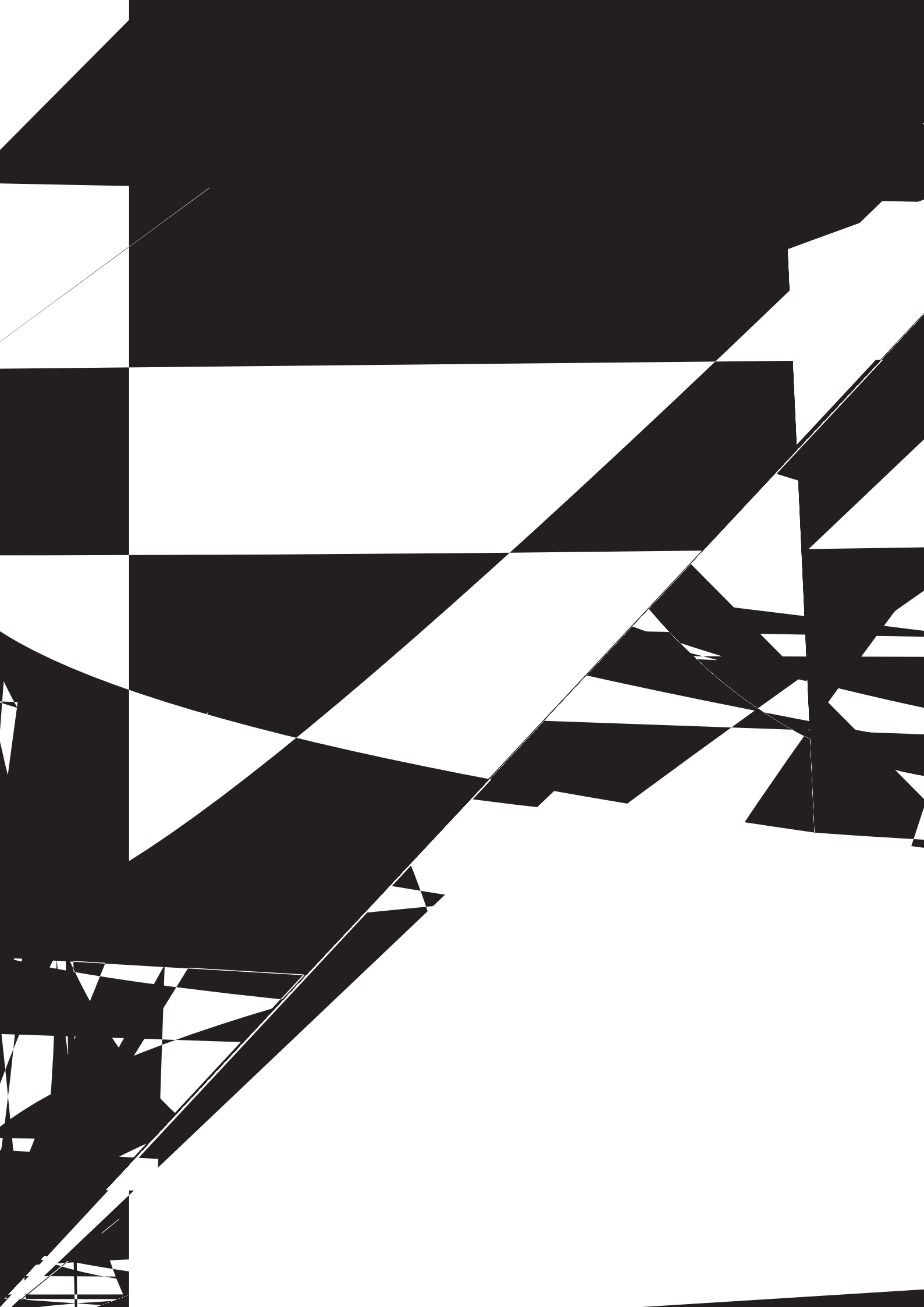
いざなみコレクション（10/10）参加者アンケート結果

回答者 / 参加者 23 / 23人（回答率：100%）

* 当企画と併せて開催された那岐小学校閉校記念登山参加者及び関係者等を合わせると約150人の参加

1 住まい





いざなみコレクション（役員等関係者向け）アンケート結果

問1 事業に対する満足度

山ガールファッションショー

（単位 人）

区 分	ア 大満足	イ やや満足	ウ ふつう	エ やや不満足	オ 大不満足	カ 無回答
地元役員	2	6	2	2	0	0
協賛企業等関係者	5	7	1	1	0	0
計	7	13	3	3	0	0

山ガールトークショー

（単位 人）

区 分	ア 大満足	イ やや満足	ウ ふつう	エ やや不満足	オ 大不満足	カ 無回答
地元役員	3	4	3	2	0	0
協賛企業等関係者	1	7	5	1	0	0
計	4	11	8	3	0	0

那岐山登山

（単位 人）

区 分	ア 大満足	イ やや満足	ウ ふつう	エ やや不満足	オ 大不満足	カ 無回答
地元役員	3	5	2	0	0	2
協賛企業等関係者	5	4	0	0	0	5
計	8	9	2	0	0	7

全イベントを通じて

（単位 人）

区 分	ア 大満足	イ やや満足	ウ ふつう	エ やや不満足	オ 大不満足	カ 無回答
地元役員	1	7	2	2	0	0
協賛企業等関係者	2	9	1	1	0	1
計	3	9	3	3	0	1

問2 事業に関する負担度

（1 1）『いざなみコレクション』開催準備に負担を感じたか？

（単位 人）

区 分	ア 全く負担は感じなかった	イ やや負担を感じた	ウ 大いに負担を感じた	エ 無回答
地元役員	8	4	0	0
協賛企業等関係者	14	0	0	0
計	22	4	0	0

（1 2）前問に係る感想

地元役員

アの回答者	人の少なさ。
イの回答者	全体的に協力が少ない。 今まで経験したことのないイベントであり、山ガールが集まるのか。観客の入りはどうなるのか。アフターファイブでの取り組みであったので不安であった。でも、準備過程は結構楽しかった。

（2 1）『いざなみコレクション（初日、2日目併せて）』のスタッフとして、負担を感じたか？

（単位 人）

区 分	ア 全く負担は感じなかった	イ やや負担を感じた	ウ 大いに負担を感じた	エ 無回答
地元役員	6	5	1	0
協賛企業等関係者	12	1	0	1
計	18	6	1	1

（2 2）前問に係る感想

地元役員

イ、ウの回答者	当日までの協力が無い。 人の少なさ。 いざなぎ振興協議会のイベントであるが、情報交流部会だけのイベントとなっていた。もう少し、全体で取り組むべき。 動いてくれる人、役があっても動いてくれない人(何を目的にやっているのか理解できない人)がいる。 もっと皆が目標に向かってまっしぐらに動くことができれば、何でも取り組めると感じた。
---------	---

協賛企業等関係者

アの回答者	山ガールとしてファッションショーに参加しました。ポーズの指示があると思いついていたので、同じようなポーズになってしまった。もう少し準備をしていけばよかったと思った。ファッションショーのモデルをさせてもらいました。当日のリハーサルの時に、ポーズを取る事や、歩く早さ等を教えてもらったので、少し時間が短かったように思いました。
イ、ウの回答者	1日目のファッションショーでは、もう少しアドバイスが欲しかった。

問3 事業の那岐地区への貢献度

『いざなぎコレクション』の実施は、那岐地区の振興に貢献したと思うか？

(単位 人)

区分	ア 貢献したと思う	イ 貢献していないと思う	ウ わからない	エ 無回答
地元役員	8	2	2	0
協賛企業等関係者	13	0	1	0
計	21	2	3	0

どの様な点で、「貢献した」または「貢献していない」と思うか？(任意回答)

地元役員

アの回答者	那岐地区という場所を知ってもらうきっかけになったと思うから。いざなぎ振興協議会として、貴重な一歩が動き出した。企画、メーカー交渉、宣伝、金銭面等、そして山ガール、古瀬さん、岡崎アナのトークショー人選交渉等、私たちに出来ないところの準備に大変感謝しております。振興協議会の始まるの事業。地区皆での取り組みはずい。1人~2人ではできない事業です。準備で貢献したと思う。
イの回答者	地区住民の参加が少ない。全体の認識となっていない。役員は満足したが、末端まで浸透できていない。
ウの回答者	参加が少ない。

協賛企業等関係者

アの回答者	インターネット上で共有した際に、周りから『こんな面白いことをやっているんだね!』と好印象を持っていただけた。また那岐登山を、してみたいと言って頂けた。次回以降の那岐のイベントをまた共有し、まず来て頂くことに繋げる。周りの反響は大きかった。広告効果は大きかったのではないかな。地域振興という観点からみて子供も大人も盛り上がっていたと思うし、メディアに取り入れられた部分も少なからず影響があったと思う。那岐小学校が廃校になることを今回のイベントを通じて知ったから。internet、TV、新聞、ラジオを通じて、これだけの取り組みが発信された事は大成功だと思う。那岐の友人が来てくれ、いろんなファッションを見てとても楽しかったと言ってくれた。地域振興という意味では、若い人や子供たちも一緒になって盛り上がったことが、県内外にアピールできたと思う。翌日に新聞に載ったので、仕事でのお客様との会話が盛り上がりました。その時に、「智頭に行って那岐山に行こう」等という事を言っておられた子供から大人まで地域の方の活性化が図れたと思う。メディアを通じて、ファッションショーの存在はもちろん、地区の存在を認知いただく事ができたと思う。山ボーイファッションショー「山メン」とキーワードうたつての実施とかどうか？TV等でイベントが取り上げられたり、那岐という地名を知ってもらう機会となったため。近隣の地域住民だけでなく、イベントを通じて他地域の方々に興味を持ってもらったり、実際に足を運んでもらったりと情報発信できた。地域にあるモノを大いに生かして住民が力を合わせて活性化しようとする取組が良かった。まんべんなく住民が参加していたし、私自身もその中に参加できて大変感謝している。
-------	--

問4 今後の希望

今後、『いざなぎコレクション』と同様の企画を「いざなぎ振興協議会」で実施してみたいと思うか？(複数回答)

(単位 人)

区分	ア 山ガールファッションショー	イ 山ガールトークショー	ウ 山ガールとともに登る那岐山登山	エ どれも実施しなくてよい	オ 新たな企画で実施してみたい	カ 無回答
地元役員	3	1	6	0	8	0
協賛企業等関係者	9	2	11	0	11	0
計	12	3	17	0	19	0

その他、那岐地区振興のために実施してみたい「企画」または「アイデア」は？

地元役員

合コン登山など
 婚活イベント
 那岐山周辺を活用した、森林セラピーロードの開拓。
 小学校の統合による秋校舎の利用。宿泊型の農業体験、転作田の貸農園等により、都会より那岐に人が来て少しでも金の落ちること。
 那岐区民が参加しやすいことをしてみたい。芸能祭的な催し。
 農業で何か。

協賛企業等関係者

奈義町との合同イベント。小学校の施設を用いたイベント。例えば、近畿圏の女性をターゲットに宿泊、婚活登山イベント実施。シティウェブでは、大山町の婚活イベントが掲載されていた。
 お客様アンケートの中にも「パワースポットとしての那岐」に期待するものが多かったと見受けました。パワースポットとしての不思議な力は女性を引き付けるのではないかと。
 ファッションショーは体育館中央に円台のようなステージがあれば、より親しみやすいと思うが、トークショーは距離が遠かったような気がする。同様に中央に円台ステージで出来れば、より身近に盛り上がると思う。(トークショーの時に子供たちがいなくなったのは、少しさびしい)
 那岐の文化・歴史を知ることができるツール(ホームページ、ブックレットなど)の積極的な展開が必要と考える。
 「メガ合コン」500~1,000人規模でしかけたい。
 初めて山ガールとして登山をしたが、おしゃれな服で登る山は、また違うワクワク感があって良いと感じた。これは年齢に限らず楽しめるんじゃないかなと思う。あたらしい企画としては、那岐のきれいな川を使って、釣り 主イベントとは別に、智頭、那岐の特産を使った屋台があったりも楽しそう。
 那岐山中でのイベントなど(野外の) 那岐山や芦津など智頭のよいところをダイレクトに感じられるような。
 回答になっていないかもしれませんが、『那岐地区にはこういったお店、会社、場所があります』といった紹介のようなものをイベントに加える。
 例：パン屋さんがある場合、パンを開催地で売る。どこに何があるなどの案内や説明を書いた那岐の地図を作る女性だけではなく山ファッションを楽しむ企画。ファッションショーだけでなくその場で購入できるといいと思った。
 キーワードを見つけて、毎年行うことで定着化できるような企画を続けていけるようにしてはどうか。
 映画ロケツアー。歴史散策。

問5 「とっとり総研」の貢献度

『いざなぎコレクション』の企画、事業実施において、「とっとり総研」は那岐地区の振興に貢献したか？

(単位 人)

区分	ア 貢献したと思う	イ 貢献していないと思う	ウ わからない	カ 無回答
地元役員	11	0	1	0
協賛企業等関係者	11	0	3	0
計	22	0	4	0

どのような点で、「貢献した」または「貢献していない」と思うか？

地元役員

多くのアイデアを頂いた。これからもよろしく!!
 新しいアイデアを提供できたところ。
 時代を先取りした発想で、地元を盛り上げてもらった。
 那岐地区で、いざなぎコレクションがこのように取り組まれ、地域の皆がそろって活動したことに心を打たれた。
 とっとり総研さんが参画されていないならば、いざなぎ振興協議会だけでは、これほどのイベントは実施できない。
 企画立案を頂きイベントが出来たことに大満足です。しかし、ファッションショー・トークショーに地元住民の動員が出来ず、総研、ラシックの皆様の期待にそえなかったことに心苦しく思うところです。那岐登山は大成功でした。
 総研の関わりはありがたかった。組織再編があっても、ギブ&テイクで大いに那岐地区を活用していただきたいと思います。
 古瀬絵里さんと呼ぶことから始まり、様々なことをやっていただいた。総研の協力がなければ、こういうイベントはできなかったと思うから。

協賛企業等関係者

仕掛け人がいて、初めて成功する企画でした。
 全てにおいて尽力されたと思う。地域の方々やそれをサポートする人たちのまとめ役として、ご苦労をお掛けしたと思う。
 「仕かけ方」を伝達する人は、一番必要だと思う。
 企画の立案、また進行やまとめ役として貢献されたと思う。
 予算では考えられないほどのイベント規模になったと認識しております。
 ゲストの誘致。企画。
 今回のことを企画したことで、那岐地区の情報を知ってもらうことができた。
 準備等、全体の運営面。
 地域でのポイントとなるもの、キーワードを組み合わせ、短期間でそれぞれの役割を決めて実現させたこと。

問6 その他、感想、意見等。(自由記入)

地元役員

廃校利活用について、意見をいただきたい。一部では、小学校をベースキャンプに那岐登山を取り組んではと考えている方がおられるがどうか？
那岐山のガイドも金を頂くなら、もう少し質の向上が必要。ガイドポイントを何か所か決めて標準化。
総研さんには、今後もアドバイスしてもらえたらありがたいです。

協賛企業等関係者

イベントは継続して行うことに意義があると思う。地域振興+企業へのメリットなど、更に協賛企業にもメリットとなるイベントの企画で次に繋げてください
お疲れ様でした
智頭と那岐山のことが、色んな方々にもっと広まるとイイですね。お疲れ様です。
那岐に行き機会を頂けた事を感謝します。今後も協力できることがありましたら、協力させて頂きたいです。ありがとうございました。
大成功おめでとうございます。大変お疲れ様でした。
自分の感想になりますが、山ガールとしての参加、とても楽しかった。那岐山の自然の良さをもっとたくさんの人に知ってもらえると良い。
智頭の素晴らしさをもっと多くの人に知っていただくと嬉しいと思う。
個人的にも非常に楽しいイベントでお客としても楽しんだ。このような機会に巡り会えた事に感謝する。
ファッションショーに参加したが、服が古くてがっかりだった。見に来られた方も期待されていた分、ファッションとは少し路線が外れていたと思う。せっかくのステージ企画なので、もっとファッションを研究されるべきだったと思う。
参加してみて感じることも多く、貴重な体験ができたと思う。

「山ガール」と呼ばれる山好きの女性を招いて那岐山の那岐山(標高1256m)を登るイベント「山ガールと登ろう!!!」が10月9、10の両日、同町で行われる。山好きとして知られるフリーアナウンサーの古瀬絵理さんのトークショーや、おしゃれなアウトドア衣装を身にまとった山ガールのファッションショーも開催。地域のシンボル・那岐山を広くアピールする。

智頭で来月9、10日

山ガールと

フリーアナウンサー
古瀬絵理さんトークショー



フリーアナウンサー古瀬絵理さん(古瀬)のトークショーに出演する古瀬絵理さん(古瀬)

那岐山に登ろう!


ファッションショーも

参加者募集


那岐山は鳥取県鳥取市(鳥取市)の山。山頂は標高1256m。山頂には「那岐山」の石碑がある。山頂からは、鳥取市街地を一望できる。山頂には、那岐山のシンボルである「那岐山」の石碑がある。山頂には、那岐山のシンボルである「那岐山」の石碑がある。

鳥取県鳥取市(鳥取市)の山。山頂は標高1256m。山頂には「那岐山」の石碑がある。山頂からは、鳥取市街地を一望できる。山頂には、那岐山のシンボルである「那岐山」の石碑がある。山頂には、那岐山のシンボルである「那岐山」の石碑がある。

【9月17日(土)日本海新聞】



鳥取21世紀
とっとり経研リポート



古川義秀

とっとり経研では、地方自治体や住民団体などとの連携、地域が直面する課題解決や活性化を図るための地域連携事業に取り組みしている。その一環として、那岐山を舞台に那岐山地区の住民が組織する「いざなみコレクション」と連携し、活性化を図る那岐山の魅力発信事業がある。

那岐山を活用した地域活性化

サブディレクター 古川義秀

この取り組みは、とっとり経研が企画し、協賛企業が事業実施する登山道整備やガイドドを行っている「那岐山をよみかへ」という既存組織があり、すでに鳥取県が可能な基盤があったこと、中高年や20代の女性からなる山ガールを中心とする登山ブームを捉え、登山ブームの中で人気の山に共通して見られる登山、トレッキング、アウトドアという要素が当てはまる山であったことがあった。しかし、全国的な活性化を図るためには、こうした魅力をいかに発信し、県内外からの観光客を誘うための手段を検討する必要がある。

その手段として、「いざなみコレクション」の開催(10月9、10日)を検討した。山ガールによるファッションショーやトークショー、会場設置の写真パネル等により、参加者に楽しんでもらうしながら那岐山の魅力を発信していく。山頂では、ガイドを付け、その登山やトレッキング、アウトドアを体験してもらうことで、さらに那岐山の魅力を発信していく。また、伊那那岐山、伊那那岐山の魅力を発信する。伊那那岐山の魅力を発信する。伊那那岐山の魅力を発信する。

【9月26日(月)日本海新聞】

“山ガール、会場彩る 智頭でアウトドアファッションショー

智頭町大舞遊楽会小学校体育館で9日、「山ガール」がモデルのファッションショー「いざなぎコレクション」が開かれ、自慢のアウトドアファッションで会場を華やかに彩った。

10日に地元の那岐山で実施予定の登山イベント「山ガールと登ろう」（いざなぎ振興協議会主催、新日本海新聞社など後援）のプレイベントとして企画。

会場では事前募集の20～50代の12人が参加し、特設ステージの花道にさっそうと登場。リュックや服装など山に映える色の組み合わせをはじめ、着こなしを披露し、大勢の来場者から視線とカメラのフラッシュを浴びた。

1番手を務めた同町出身の大学生、谷口莉子さん(20)は「この日のために大阪から帰省。『ぶっつけ本番だったが

いざなぎコレクション



自慢のアウトドアファッションで花道に勢ぞろいした山ガール＝9日、智頭町大舞の那岐小学校

緊張せずに楽しめた」と笑顔でステージを飾った。

後半は、山ガールとしても活躍するフリーアナウンサーの古瀬絵理さんを招いたトークショーも実施。古瀬さんは愛用のカメラや携帯コンロと

いった道具を紹介しながら「鳥取は故郷の山形と似て光陰的な場所が多い。もっと山のファッションを楽しみたいのもったいない」と、山りの魅力について語った。

【10月10日（月・祝）日本海新聞】

山ガール 智頭でショー「日本登山の勝り」

いざなぎコレクション

「山ガール」のファッションショー「いざなぎコレクション」が9日、智頭町大舞の那岐小学校で開かれた。会場は山ガールのファッションで華やかに彩られた。10日に地元の那岐山で実施予定の登山イベント「山ガールと登ろう」のプレイベントとして企画。

会場では事前募集の20～50代の12人が参加し、特設ステージの花道にさっそうと登場。リュックや服装など山に映える色の組み合わせをはじめ、着こなしを披露し、大勢の来場者から視線とカメラのフラッシュを浴びた。

1番手を務めた同町出身の大学生、谷口莉子さん(20)は「この日のために大阪から帰省。『ぶっつけ本番だったが緊張せずに楽しめた」と笑顔でステージを飾った。

後半は、山ガールとしても活躍するフリーアナウンサーの古瀬絵理さんを招いたトークショーも実施。古瀬さんは愛用のカメラや携帯コンロといった道具を紹介しながら「鳥取は故郷の山形と似て光陰的な場所が多い。もっと山のファッションを楽しみたいのもったいない」と、山りの魅力について語った。

（本報記者）

【10月10日（月・祝）朝日新聞】

